

令和4年度＜自己評価表1：各部等の取組＞

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	重点取組事項	評価	成果 (○) と課題 (●)
小 学 部	<p>小学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、児童一人一人の可能性を伸ばしながら、集団生活でのルールを知り、学校や家庭でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、健康な身体づくりに取り組む。</p> <p>○ことば・かずなどの学習の基礎となる知識、自分の意思を身近な人に伝える力を育てる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○自分や友達の良さに気付き、友達と仲良くしようとする態度を育てる。</p> <p>○身近な人との関わりの中で、して良いことと悪いことが分かり、決まりを守ろうとする態度を育てる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○毎日の生活や学習に意欲や自信をもって取り組む態度を育てる。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びにつながるような授業改善や、ICT機器の活用などに取り組み、多様化する障害や個々の児童の教育的ニーズに応じた教育実践を行う。</p>	B	<p>○視覚的に分かりやすい教材の工夫、タブレット等のICT機器の活用、児童同士が学び合うような授業の展開、自身の目標に対する振り返りの設定などの授業改善に取り組み、成果が得られた。</p> <p>●学級を主体とした授業では、個々の実態に応じた教科指導が十分にできていない学年もあった。今後は、実態別のグループを作るなど、指導体制の工夫を行う必要がある。</p>
		<p>○児童に、夢や願いをもって主体的に学ぼうとする態度、集団生活における自律心を育成することができるよう、学年間や学部間で連携・協力した指導を行う。</p>	B	<p>○行事や複数学年での授業を通して、児童に高学年への憧れの気持ちや自立心、役割に対する責任感などをもたせることができた。</p> <p>○●学年会、学部会等で情報共有を図り、学部内では連携・協力して指導を行うことを心掛けたが、今年度も学部間の交流には難しさがあった。</p>
		<p>○コンプライアンスの遵守とともに、児童・職員の人権に対する意識を高め、互いを大切にする教育を行う。</p>	B	<p>○児童に対し、目標に向けて努力している様子を皆の前で評価する、互いの良いところを認め合う場面を設定するなどの指導の工夫を行い、他者との関わり方に良い変化が見られた。</p> <p>●児童への関わり方が原因で、保護者とトラブルになるケースがあった。また、今年度も学校評価で年休の取りづらさを訴える職員が数名いた。</p>
		<p>○児童が安全に過ごすことができるよう、教育環境の整備や、職員の危機管理に対する意識の向上を図る。</p>	A	<p>○日頃からの教室等の整理整頓、定期的な点検と結果の共有、危険箇所への早急な対策などがなされ、今年度は今のところ大きな事故は起こっていない。</p>
		<p>○家庭や関係機関と連携・協働しながら、根拠のある指導を行うとともに、学校教育についての情報発信や理解啓発に努める。</p>	B	<p>○連絡帳、通信、HPなどを通して、保護者に情報を発信し、情報共有をしたり指導への理解を得たりすることができた。</p> <p>●不登校傾向の児童については、関係機関とつながり対応をしているものの、1事例を除いては登校につなげることが難しい状況が続いている。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	重点取組事項	評価	成果 (○) と課題 (●)
中 学 部	<p>中学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を高めながら自律心を育て、学校や地域でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p>	<p>○生徒一人一人の実態や発達段階を踏まえ、生徒の実態に応じたICT機器活用の充実を図る。</p>	B	<p>○生徒の実態に応じたアプリ等を個別または授業全体の中で活用した。活用方法に慣れてきた生徒もおり、深い学びが得られた。 ●今後は指導内容に沿った学習アプリの活用と指導方法のスキルアップが必要である。</p>
	<p>【知識及び技能】 ○地域社会で生活するために必要な基本的な生活習慣や生活態度を身に付け、自ら健康な心身づくりに取り組む態度を育てる。</p>	<p>○学校生活におけるルールの理解を深めるとともに、他者を思いやる気持ちを大切にし、互いに協力しながら、自己肯定感を高める教育活動を実践する。</p>	B	<p>○欠席した友達の係活動を代行したり、友達同士声を掛け合ったりする様子が見られた。また、自発的に行動することも増えてきた。 ●時々、意見が合わない場面も見られるので、その状況に応じた意見のすり合わせや歩み寄りが大切であることを伝えていく必要がある。</p>
	<p>○集団生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生活を豊かにする各教科等の知識・技能を身に付け、周りの人に自分の意見や考えを伝える力を育てる。</p>	<p>○人権に対する生徒・職員の意識の向上を図るとともに、コンプライアンスの遵守に努める。</p>	B	<p>○生徒に対し、それぞれ頑張っていることや良いところを伝えると、生徒同士で相手を認め合う雰囲気ができるようになってきた。 ●今後も、生徒の実態に応じた人権に関する内容を学校生活全体の中に取り入れたり、ルールやマナーを継続的に伝えたりしていく必要がある。</p>
	<p>【思考力、判断力、表現力等】 ○自分を大切にする気持ちや他者を思いやる気持ち、人間関係を形成する力を育み、地域との交流などを通して、互いに理解し合い、共に地域や社会で生きる基礎を育てる。</p>	<p>○学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を進めながら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努める。また、実践に基づいたより良い教育課程編成に努める。</p>	B	<p>○各クラス・学年で授業を行う中で、指導内容を工夫したり、指導方法を共通理解したりすることで、生徒が主体的に学ぶ姿勢が増えてきた。 ●教科を合わせた指導を行う上で、どの教科のどの内容を指導するのか、学習指導要領を踏まえながら共通理解を深めていく必要がある。</p>
	<p>○学校や地域での生活において、自ら進んで考えたり、我慢したり、正しい行動をしたりしようとする態度を育てる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○学習に主体的に取り組む態度や課題に集中する力を身に付け、積極的に集団参加する態度を育てる。</p>	<p>○生徒が安全で安心して活動できる環境を整備するとともに、事故防止に努める。</p>	B	<p>○日々の安全点検やコロナ感染症対策(消毒等)を行うことで、大きな事故等なく、安全安心な教育活動を進めることができた。 ●老朽化等に伴う環境整備に努めるとともに、「ヒヤリハット」などの事例について職員間で共通理解を図りながら、教育活動を進めていく必要がある。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	重点取組事項	評 価	成果 (○) と課題 (●)	
高 等 部	<p>高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながら自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p><普通科></p> <p>○学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。</p> <p>○社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。</p> <p><就業サービス科></p> <p>○社会的・職業的自立を目指し、各教科等の取組を通して一般就労に必要な生活習慣の定着を図る。</p> <p>○社会生活・職業生活におけるルールやマナーを理解させるとともに、必要な専門的知識や技能、コミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p><普通科></p> <p>○他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。</p> <p>○豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。</p> <p><就業サービス科></p>	<p>本 校</p>	<p>○生徒一人一人の課題解決に向けた自立活動の充実を図る。</p> <p>・生徒の実態把握による課題設定と、時間における自立活動の指導の充実を図る。</p>	A	<p>○就業サービス科における時間の指導の導入及び、自立活動部を中心とした自立活動ミーティングの実施など、自立活動の取組に対する職員の意識の醸成と、指導の充実が図られた。</p>
			<p>○ICT 機器を有効活用した指導の充実と、学習意欲や学習効果の向上を図る。</p> <p>・ICT 機器の持ち帰りを想定した準備を進める。(Web 授業や動画配信等)</p> <p>・個に応じた有効活用を推進(各種アプリケーションの活用等)する。</p>	C	<p>●ICT 機器の持ち帰りの準備を進めているが、長期休業中の有効活用まで成果として見られていないのが現状である。</p> <p>○学部内の教師間で自発的に、各教科で活用できるアプリの紹介をしあう研修会を実施するなど ICT 機器の活用に対する意識が高まってきた。</p>
			<p>○安全で安心できる教育環境の整備及び充実を図るとともに、環境美化に努める。</p> <p>・校内設備の有効活用及び、学習効果を高めるための教育環境の整備を進める。</p> <p>・校内美化への意識を高め、清掃活動に精力的に取り組む。</p>	B	<p>○安全点検をはじめ、教育環境の整備については、改善要求に対する迅速な対応ができた。</p> <p>●教室不足や生徒がリラックスできる空間の確保が難しい現状である。</p> <p>●校内美化に心掛けているが、清掃が行き届いていない箇所も見られた。</p>
			<p>○互いに気持ちよく挨拶する習慣を身に付けるとともに、卒業後の生活を意識し、社会生活における必要なルールの定着を図る。</p>	A	<p>○生徒会を中心に目標として掲げ、ワンストップ挨拶を心掛ける生徒が増えた。また、授業の際の挨拶も良くなってきた。</p>
			<p>○就労体験実習等を通し、社会体験の充実を図るとともに、保護者と連携した生徒の特性に応じた進路指導の実現を目指す。</p> <p>・本人及び保護者の進路への意識を高め、目指す進路実現のために必要な情報の共有を図る。</p> <p>・コロナ禍における進路指導を充実させるため、各学年及び実態に合わせた指導方法を検討する。</p>	B	<p>●保護者会、学級懇談会における進路研修等により少しずつであるが、保護者への進路指導への意識の高まりが伺えるものの、今後更に保護者と一緒に考える進路指導の充実を図っていきたい。</p> <p>○コロナ禍でありながら、各学年の就労体験実習の実施ができた。進路決定も順調に進んでおり、全員の進路決定を目指す。</p>
			<p>対 馬</p>	<p>○夢や願いの実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成を目指し、道徳教育と進路指導の充実を図る。</p>	B

<p>○自立的態度や他者の気持ちや考えを尊重し、望ましい人間関係を形成する力を育む。</p> <p>○豊かな社会生活・職業生活を見据えて、目標と責任をもって自らの規範意識に基づき自律的に判断したり、主体的に行動したりしようとする態度を育てる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p><普通科></p> <p>○興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする態度を育てる。</p> <p><就業サービス科></p> <p>○興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、常に自己の課題を理解して解決を図ろうとする態度を育てる。</p>	分 教 室			るが、学年を問わず、全職員が目指すべき生徒像の実現に向けて組織的に指導していく。
		○経年研修における授業研究を有効に活用し、「一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業改善及び効果的なチーム・ティーチングの在り方」の校内研究を推進する。	C	●教科会レベルでは、各担当（T1やT2）同士で各役割について、より丁寧に打ち合わせることができるようになったが、分教室全体としての課題の共有というまでには至っていない。
		○ICT 機器を有効活用した指導の充実と、学習意欲や学習効果の向上を図る。 ・Web 授業や動画配信等、ICT 機器の持ち帰りを想定した準備を進める。	B	○多くの教員がタブレット端末を使用して授業を行っている。生徒たちも使用頻度が高く、効果的な活用ができています。希望者には持ち帰りも行い、実習期間中には学校と自宅をつなぎ、振り返りなどにも活用することができました。 ●Web 授業や動画配信については、準備段階である。
		○互いに気持ちよく挨拶する習慣を身に付けるとともに、卒業後の生活を意識し、社会生活における必要なルールの定着を図る。	A	○生徒、教職員共に気持ちの良い挨拶や集団生活における基本的なルールやマナーは守られ、実践することができている。今後も継続した実践と指導を行っていきたい。
		○対馬市教育委員会等と連携を深めながら、対馬市における特別支援教育の理解・啓発及び充実を図る。	A	○コーディネーターを中心に細やかに連絡を取り合い、連携は図れている。研修会（TSUNAGU）においては、対馬市教委との入念に打合せによってリモート形式を取り入れ、円滑に実施できた。関係機関とのつながりは深まっている。
		○本校事務室・対馬高校との連絡を密に図り、教育環境改善への取組を推進する。	A	○昨年度の大幅改修を受け、今年度は教育環境の充実が図ることができた。今後も本校事務室、対馬高校とも細やかに連携を図り、より一層の教育活動の充実につなげていきたい。

令和4年度<自己評価表2：各校務分掌等の取組>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	○学校教育目標を達成するために、教育計画の企画立案及び連絡調整を図り、効果的な教育活動の推進に努める。 ○教務事務を的確に処理し、学校運営の円滑化を図る。	○学校教育目標を実現するための「カリキュラム・マネジメント」の具体的方策を明らかにし、次年度の教育課程編成を円滑に行う。	B	○教育課程委員会を通して、各部の課題や方向性を確認するとともに、学校としての教育課程編成に向けた取組として、適切な委員会のスケジュールを検討することができた。 ●教育課程編成に向けた取組が2学期から取り組むシステムでは、どうしても2学期後半から年度末にかけて多忙になってしまうことから、委員会を1学期の早い時期に設定したり、教科会の活用の仕方を検討したりする必要がある。
		○校務支援システム導入に合わせて、個別の指導計画及び通知表の作成手順を整備し、円滑な運用を目指す。	B	○県の様式や他校の記入例の情報を基に、本校版の記入例を作成し、職員へ周知し、運用することができた。 ●目標の設定の仕方や評価の仕方などの記入の仕方や複数で評価する場合など、細かな点を明確にしておく必要がある。また、次年度から校務事務支援システムが本格的に運用されるため、マニュアル等の周知やルールを提示していく必要がある。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
研究・研修部	○学校教育目標に掲げる資質・能力の育成を目指し、一人一人の児童生徒に応じた指導・支援の充実を図るため、各学部・寄宿舎が一体となって研究を推進する。 ○一人一人の職員の専門性向上を目指し、校内における研修会や研究授業等の企画及び運営を行う。 ○教育センター講座をはじめ、県内外における各種研修会等の情報発信を行	○学校行事に関連する教育活動をカリキュラム・マネジメントの視点で捉え、学びの連続性を意識した校内研修を行う。	B	○学校教育目標を意識した行事の在り方を考えることができた。 ○行事を一つに絞って研究を進めたことにより、目指す児童生徒像をもとに学習内容の整理等ができた。 ●各部の内容の整理にとどまり、小中高のつながりや学びの連続性まで取り組むことは難しかった。
		○進路指導部と連携したキャリア・パスポート(虹の原 Ver)の改善・作成を行う。	B	○進路指導部を中心としながら各部のキャリア・パスポートの試案が完成した。 ●キャリア教育全体計画の見直しが必要である。

<p>い、積極的な参加を促すとともに効果的・効率的な研修報告会の企画・立案を行う。</p> <p>○長特研等の準備・運営に必要な業務を円滑に遂行する。</p>	<p>○オンライン等を活用した研修会の充実を図り、職員の専門性の向上を目指す。</p>	B	<p>○夏季休業中の現職教育を動画視聴にし、本年度の研究テーマに合う内容の動画を提案できた。</p> <p>●自主研修のような形になるので、専門性の向上につながったのか不確定である。</p>
	<p>○初任研・経年研・中堅研等の研修機会の設定と授業研究会の充実を図る。</p>	B	<p>○初任研と中堅研の授業研においては、学部単位ではあるが、全職員が積極的に参加するようになった。</p> <p>●研究授業を参観できる教員が少ないことや休憩時間に授業のビデオを視聴することなど課題である。</p> <p>●若手研が年度末に集中して実施している状況であるため、実施時期や方法など改善が必要である。</p>
	<p>○長特研及び九特連の発表に向けた準備を計画的に進める。</p>	A	<p>○集合開催ができなくなったが、動画撮影等、関係職員の協力を得て、発表まで実施することができた。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
自立活動部	<p>○自立活動における実態把握、指導目標の設定、指導内容の設定、指導方法、学習評価、指導改善に関する教師の専門的な知識や技能を向上し、教職員の自立活動に関する専門性の向上を図るとともに、組織的実践力を高める。</p>	<p>○自立活動の指導に係る力量形成に向けたチェックシートの実施と、その結果に基づいた取組(校内支援、情報の発信、外部専門家の活用等)を充実させる。</p>	A	<p>○昨年度のチェックシートの結果を踏まえ、実態把握から目標設定までの力量を形成できるよう、自立活動検討会での丁寧な説明や、虹ポケでの情報提供、教育センターの出前講座の利用など、様々な取組を行った。</p> <p>○今年度は全職員に対してチェックシートを実施し、分析をすることができた。次年度以降、分析するツールとして活用できる Excel シートも作成した。</p> <p>●力量については、一年だけで形成されるものではないので、次年度以降も策を講じていく。</p>
		<p>○新様式での個別の指導計画と補助シートの記入方法を浸透させ、課題関連図を中心とした指導目標等の設定に係る専門性の向上を図るとともに、記入上の課題の洗い出しを行う。</p>	B	<p>○新様式は、小学部、高等部のこれまでの様式にはなかった課題関連図について、自立活動検討会で時間をかけて説明した他、出前講座でも重点的に研修を行った。</p> <p>○記入上の課題については、新様式で先生方に作成していただく中で、通知表への転記の仕方等、より</p>

			<p>詳細に決めるべき事柄が出てきた。すぐに検討が必要なことについては、その都度検討し、周知した。</p> <p>●記入上の課題の整理はまだ十分にできていない。把握している分については、次年度使用する記入例やマニュアルに反映させる。</p>
--	--	--	--

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
生活・生徒指導部	<p>○児童生徒一人一人が自分を大切にしながら学校生活を送り、集団の一員として適応能力の向上を図る指導を行う。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立を図りながら、社会的規範意識の涵養に努め、問題行動等を未然に防止する。</p> <p>○児童生徒が登下校や学校生活において、安全かつ安心して活動できるように、安全教育(交通事故、犯罪への対応等)の徹底を図る。</p> <p>○児童生徒自らがチャレンジ精神をもって、学校を活性化させていく活動ができる児童生徒会を目指す。</p>	<p>○児童生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるように、教育支援部が実施する学校生活アンケートや行動観察による実態把握を行い、いじめや問題行動等が発生しないような支援や指導に努める。</p>	A	<p>○高等部において、男女交際、無断バイク乗車、無断アルバイトの個別指導を行い、それぞれ効果が見られた。また、『生徒心得』の一部改訂にもつなげていく予定である。</p> <p>○スクールバスの乗車マナーについて指導を行い、登下校時の見守りや指導を強化することである程度の効果が見られた。</p>
		<p>○携帯電話・スマートフォンの指導等、本校が抱える課題と向き合い、保護者・全教職員との連携を図り、その改善に努める。</p>	A	<p>○高等部では、スマホ安全教室を実施し、学部集会があるごとにSNS等のトラブルについて伝え、保護者向けにも説明の機会を設けることができた。スマホだけでなくオンラインゲーム等でのトラブルにも注意していく必要がある。</p>
		<p>○交通安全教室、携帯電話・スマートフォン安全教室、不審者対応訓練等を実施し、スクールサポーターと連携しながら安全教育の充実を図る。</p>	B	<p>○全学部で交通安全に関する指導を実施できた。</p> <p>○夏季休業中にスクールサポーターの指導を受け、不審者対応の職員研修を実施し、不審者対応避難訓練に臨むことができた。</p> <p>●訓練後のスクールサポーターからの助言を今後どのように活かしていくか検討が必要。</p>
		<p>○あいさつ運動、集会活動、委員会活動などの児童生徒会活動や学校行事を積極的に行い、児童生徒が自主的に活動し、親睦を図るよう努める。</p>	B	<p>○挨拶運動は、児童会・生徒会を中心にとっても意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○挨拶運動や集会活動において、児童生徒が自主的に取り組めるよう心がけながら指導を行うことができた。</p> <p>●高等部では、コロナ禍で集まることができない中での委員会活動等の実施の難しさを感じた。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
防災対策部	<p>○地震・津波・豪雨等の自然災害や火災等から児童生徒を守るため、事前の危機管理(体制整備・点検・避難訓練)、発生時の危機管理(初期対応、二次避難)、事後の危機管理(安否確認)、引き渡しと待機についての組織的対応の推進を図る。</p> <p>○災害発生時、本校が避難所を開設する際の体制整備を行う。</p>	○緊急時の手順、役割分担等、実際に機能するための避難訓練の充実と、教職員一人一人安全管理意識の向上を図る。	A	<p>○四月に職員向けのマニュアルの研修を実施することができた。</p> <p>○二回の避難訓練を実施し、休み時間を想定した訓練やろう学校運動場への一次避難の仕方を確認できた。</p> <p>●ろう学校との合同での訓練を実施し、スムーズな避難を確認する必要がある。</p>
		○緊急時における引き渡しシミュレーション訓練を実施し、課題の洗い出しとその解決を図る。	B	<p>○学部ごとに待機場所や受付の場所を分けた引渡し訓練を実施することができ、保護者の誘導の仕方や表示のあり方など細かな洗い出しができた。</p> <p>●洗い出した課題の具体的な解決にまでは至っていないので、来年度以降も訓練を通して最善の方法を検討していく。</p>
		○災害時の備品、備蓄品の確認・検討と管理をする。	B	<p>○栄養士と連携し、非常食の救給カレーを毎年度試食できるようにした。</p> <p>●現在一人二食分の非常食を備蓄しているが、その量で足りるのかの検討が必要である。</p> <p>●災害時や非常時に必要な備品や備蓄品を保管・管理できる場の検討や確保が必要である。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
体育・健康部	<p>○個々の能力や特性に応じた身体活動を通して、個々の課題に気付き、総合的な体力の向上と心身の調和的発達を目指す。</p> <p>○健康や安全、衛生面に対する意識を高め、健康の保持増進と基本的生活習慣が確立できるように努める。</p> <p>○児童生徒が安全で楽しく活動できるよう体育設備・用具などの整備に努める。</p> <p>○児童生徒が自らの食生活について考える習慣を身に付け、生涯</p>	○健康や衛生面に対する意識を高めるとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底に努める。	B	<p>○管理職、養護教諭等と連携し、児童生徒や職員に予防対策の徹底を促すことができた。</p> <p>●感染の広がりを抑えることが難しい状況になることも見られたが、可能な範囲での対応はできたと考える。</p>
		○ボールなど必要な道具の購入や体育用具の点検を行うとともに、倉庫の整理等を行い、管理場所の安全確認をし、安全に利用したり活動したりできるようにする。	B	<p>○必要に応じて、体育館倉庫、運動場倉庫など、片付けや点検を行うことができた。</p> <p>●バドミントン用支柱立ての購入を依頼中である。購入後、バレーボールの支柱も含め、廃棄、整理等を行いたい。</p>

	にわたって健康な生活を送ることができるよう食育学習の充実を図る。		
--	----------------------------------	--	--

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
情報文化部	<ul style="list-style-type: none"> ○文化的行事の企画・運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。 ○児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし発表する場を設ける。 ○視聴覚機器・機材及び図書を整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。 ○情報機器を活用し、情報教育の推進及び教員の業務の効率化を図る。 ○情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報の危機管理について職員への周知や研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を工夫し、虹のまつりの企画運営を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学部ごとに児童生徒の実態に合わせた演技発表、作品作り、バザー等の発表の場をもつことができた。また、20周年記念事業と関連付けて、児童生徒の学習の成果をあらゆる形で表現することができた。 ●来年度以降の実施方法については、舞台発表、展示方法など、反省をもとに今後の在り方を検討していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒用タブレットパソコンの活用や持ち帰りを進めることで、児童生徒の学習効果を高めたり、臨時休業時や長期休業中の学習保証を行ったりする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より保険加入を条件としたタブレットパソコンの持ち帰りを実施することができた。 ○持ち帰りを実施する児童生徒の保護者を対象に、タブレットパソコンの活用に関する保護者説明会を実施することができた。 ○タブレットパソコンの活用について、演習を含めた実践的な研修を実施することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ○情報セキュリティや情報機器活用に関する研修を通して、職員の個人情報取り扱いに関する危機管理意識を高めたり、オンライン授業等のICT活用能力の向上を図ったりする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に、Teamsの活用に関する研修会を実施することができた。 ●Teamsを活用した学習指導等に関する研修会を実施することができなかった。まずは、全職員がTeamsを活用する場面を増やしていく必要がある。 ●年度始めのアカウント等の周知において、不適切な事案があった。再発防止に努めていく。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果 (○) と課題 (●)
教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の教育支援計画を作成し有効活用することにより、教員・保護者・関係諸機関の一層の連携を図る。 ○近隣の小・中学校等との交流及び共同学習、地域住民との交流活動の一層の充実を図る。 ○特別支援学校としてのセンター的機能の充実を図るとともに、関係諸機関との連携を通して校内支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の教育支援計画様式の変更に伴い、円滑な作成や有効な活用に向けた準備や改善、調整を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて学部や学年に細かい説明を行ったり、支援目標や合理的配慮に関する事項の表記について支援部が提案したりしたことで配付期限が遅れることはなかった。 ○様式の不備や例外の事態が発生したときには、直ちに対応をし、変更に伴う大きな混乱はなかった。 ●今年度末までの状況を見て、来年度開始までに早急に様式や手続きの修正、整備を行う必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策下における児童生徒の交流及び共同学習の充実に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小学部4年生は、近隣の小学校との直接交流ができた。他学年については、新型コロナウイルス感染症対策により手紙等の間接交流を行った。 ○中学部は近隣の中学校とオンライン交流ができた。 ○小学部の居住地校交流については、希望者18名中16名が実施できた。 ●小学部は、交流の回数や対象児童が多く、実現のためには、実施回数及び実施日、それに伴う校内指導体制調整の困難さから、密な連絡調整や協力体制が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ○大村市特別支援教育連絡協議会の企画運営や新型コロナウイルス感染症対策下における教育相談等を工夫し、センター的機能の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○大村市特別支援教育連絡協議会の夏季研修会については、中学校区ごとの分室でオンデマンド配信による開式行事や講話、協議等の設定をしていたが、結果的には中止となった。しかし、講話については期間限定でのweb配信対応へ変更し、関係機関の多くの職員に活用していただいた。 ○依頼があった教育相談にはすべて対応できた。 ●大村市特別支援教育連絡協議会企画運営の市教委への移管に向けた調整が継続中であり、今年度末までに方向性の決定予定である。
		<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童生徒の放課後デイサービス利用状況の整理を行い、SCやSSW、関係諸機関との効果的な連携を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後等デイサービスの利用状況を、事業所ごとに分かるようにした。 ○必要に応じてSCやSSWにつなげたことで、児童生徒及び保護者や担任が抱える課題や悩みに

			<p>関する話をし、ストレス軽減につながる機会をもてた。アドバイスを受けることで、解決への一歩を見出せた事例もあった。</p> <p>●放課後等デイサービスの利用状況表を活用しやすく改善する必要がある。</p>
--	--	--	---

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教育環境整備部	<p>○安心・安全で健康な職場づくり、児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成のために4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動を促す。</p> <p>○事務室と連携しながら、校舎内外の施設設備の整備・充実に努める。</p> <p>○環境教育を意識し、ごみの減量や分別、節電などの省エネ環境の充実に努める。</p>	<p>○毎週水曜日は職員室清掃であることを引き続き意識できるよう、各部で声掛けを行い、必要な清掃用具を準備する。</p>	B	<p>○担当の表示を作成し、活用することで、毎週実施されるなど、職員清掃に対する意識を高めることができたと考える。</p> <p>○男性更衣室の清掃用具や階段下倉庫内の整理整頓を実施することで、清掃用具を活用しやすい環境を作ることができたと考える。</p> <p>●時折、湯茶室の水回りの清掃がされていないことがあったので、担当を意識できるような手立てが必要だと考える。</p>
		<p>○毎月の安全点検では、各個人に割り当てた点検表と遊具の点検の二つを実施し、速やかに管理職からの確認をもらう。また、事務室と連携して校舎内外の整備に当たる。</p>	B	<p>○安全点検を毎月実施した。早急に修理等が必要な個所については、その都度事務室担当と確認を取りながら改善に取り組むことができた。</p> <p>●毎月の安全点検表の提出が100%ではない。</p>
		<p>○通常のごみや資源ごみなどが正しく処分されているか係で点検し、分別処理の意識を高める。</p>	C	<p>●係で確認を十分に実施できなかったため、毎週水曜日に実施している職員室清掃と合わせるなど、点検の実施日などについて検討していく。</p>

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、一人一人のニーズや発達段階に応じた進路指導を系統的・発展的に行う。 ○児童生徒の将来の社会的・職業的自律を目指すために、担任・保護者及び地域社会や各支援機関との連携を図りながら、進路指導体制の整備・効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「キャリア・パスポート」の様式を作成し、小・中・高一貫したキャリア教育を実践する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部で次年度からの実施に向け、様式を作成した。教員の資料として目標リストも作成した。 ●小中高での系統性などを検討できなかった。目標リストについて今後、話し合う予定。
		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の進路先につながる企業や事業所へ情報を発信する機会を検討し、実習先、進路先の開拓を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○企業向けの学校見学会をろう学校で実施することができ、新規の実習先としてつながった企業があった。 ●ホームページ等で実習等の様子を発信できなかった。企業によっては、企業名を出して掲載してほしいという話もあるので、ホームページの充実も図りたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ○就労体験実習・進路学習等において、ICT機器を活用するなど進路指導の効果的な方法を構築していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部では動画の視聴や習等でタブレットPCを活用できた。 ○就業サービス科では、キーノートやimovieを活用して、実習の報告会等を実施できた。普通科2年生でもキーノートの使い方の学習や発表を行う予定である。 ●高等部1年生では、納入時期等の関係で活用が難しい。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
舎務部	<p>○学校、家庭、関係機関との連携を図り、健全で楽しい集団生活を送ることができるよう支援する。</p> <p>○寄宿舎生が安全・安心な生活が送れるよう、十分な対策を立てて指導に当たる。</p> <p>○寄宿舎生の基本的な生活習慣の確立を図り、健康の保持・増進に努める。</p> <p>○寄宿舎生の自主的な活動を促し、個々の能力が十分発揮できるよう、個々の内面の動きや特性に配慮した指導・支援を行う。</p>	<p>○職員の共通理解の方法、指導体制の見直しを行い、学校、家庭、関係機関が連携し、寄宿舎生が安心・安全で快適な生活が送れるように努める</p> <p>・学校、家庭、関係機関と連携を行い、一貫性のある指導・支援に努める</p> <p>・感染症対策を徹底し、寄宿舎生が健康で安心して生活できる環境づくりに努める。</p>	A	<p>○児童生徒の支援の方法について、一貫性をもたせるため、学級担任と部屋担当が協議したことを棟内で共通理解した。担任からケース会議の報告も受け、全体でも共通理解を行った。</p> <p>○家庭、学校と連携を取りながら支援・指導に当たることができた。登校がスムーズでない生徒については、担任と更に連携を密にする必要があると感じた。</p> <p>○帰省・帰舎時の体調管理・確認を保護者へも理解を求めながら、感染症対策を徹底することができ、健康に過ごすことができた。</p>
		<p>○寄宿舎指導員の手引きを活用した研修を行い、寄宿舎指導員としての専門性を高めるとともに、学んだことを児童生徒への支援指導や保護者との対応に生かす。</p>	A	<p>○夏季休業中に寄宿舎指導員研修会に全職員が参加した。保護者対応の方法や服務について学び、寄宿舎生への支援・指導に生かすことができた。</p> <p>○校長先生より、夏季休業中、冬季休業中に研修をしていただいた。実りのある研修で、寄宿舎生への支援・指導に生かすことができた。</p>

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
事務部	<p>○児童生徒の安全を守り、社会の変化に対応した教育環境を整備するため、計画的に改修工事を行うとともに、学校の管理運営に要する経費を確保することで、効率的な教育活動が展開できるようにする。</p> <p>○適正かつ迅速な事務処理を行うとともに、明るく働きやすい職場環境づくりに努めることで、保護者の信頼に応える。</p>	<p>○関係機関及び校内の連絡調整を密にし、増築工事を円滑に進める。</p>	A	<p>○校内の協力もあり増築工事の基本設計は完了した。</p> <p>●今後は実施設計の調整を行い、次年度からの工事施工が円滑に進むようにしたい。</p>
		<p>○安心・安全・快適な教育環境を整備するため、長期的展望に立った改修計画を策定する。</p>	B	<p>○安全点検等の不具合箇所は順次修繕中である。</p> <p>●築20年経過で施設設備の劣化も見受けられるため、長寿命化のための改修計画を立てたい。</p>
		<p>○「チーム事務室」として、働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、研修に積極的に参加する。</p>	A	<p>○チーム事務室として働きやすい職場環境に努めた。研修はコロナ流行による中止もあったが、各職員1回の参加はできた。次年度も継続したい。</p>